「喜びに溢れる」　2023年06月09日

その時、イエスは聖霊によって喜びに溢れて言われた。「天地の主である父よ、あなたをほめたたえます。これらのことを知恵ある者や賢い者に隠して、幼子たちにお示しになりました。そうです。父よ、これは御心に適うことでした。すべてのことは、父から私に任せられています。父のほかに、子が誰であるかを知る者はなく、子と、子が示そうと思う者のほかに、父が誰であるかを知る者はいません。」（ルカ10：21～22）

主イエスは、遣わした弟子たちの宣教が実り多いものであったことを聞き、聖霊によって喜びに溢れ、神に感謝の祈りを捧げられた。「天地の主である父よ、あなたをほめたたえます。」天地を創造された神を親しく「父」と呼んで、まず「あなたをほめたたえます」と神への賛美をもって祈り始められた。そして、祈りの内容は二つである。一つは「これらのことを知恵ある者や賢い者に隠して、幼子たちにお示しになりました。そうです。父よ、これは御心に適うことでした」である。神の言葉は、知恵ある者や賢い者には届かず、幼子たちに受け入れられた。このことは、神の御心に適うことであった。神の言葉は、神を初々しく信じること、また、どんな人も祝福されて生かされているので、互いに愛し合って共に生きることである。これは、自分の力と知恵を誇り、人々の上に立って支配しようとする人々には受け入れ難い教えとして拒絶される。幼子のような無垢な気持ちで生きようとする者は嬉しい福音として受け入れる。パウロはＩコリント書で、「十字架の言葉は、滅びゆく者には愚かなものですが、私たち救われる者には神の力です（Ｉコリント１：18）」と書いている。その後、「きょうだいたち、あなたがたが召されたときのことを考えてみなさい。世の知恵ある者は多くはなく、有力な者や家柄のよい者も多くはいませんでした。ところが、神は知恵ある者を恥じ入らせるために、世の愚かな者を選び、強い者を恥じ入らせるために、世の弱い者を選ばれました。また、神は世の取るに足りない者や軽んじられている者を選ばれました。すなわち、力ある者を無力な者にするため、無に等しい者を選ばれたのです。それは、誰一人、神の前で誇ることがないようにするためです（Ｉコリント１：26～29）」と続けている。主イエスが啓示した福音は、愚かで、世から軽んじられている人たちに神の力として示された。福音の真実は、ここにあると祈っておられる。二つ目の祈りは、「すべてのことは、父から私に任せられています。父のほかに、子が誰であるかを知る者はなく、子と、子が示そうと思う者のほかに、父が誰であるかを知る者はいません」である。逆説的な表現であるが、意味することは、ヨハネ福音書14章で、主イエスは父に到る道だと明言した後、「私を見た者は、父を見たのだ」「私が父の内におり、父が私の内におられると、私が言うのを信じなさい（ヨハネ14：9c、11）」という言葉と同じである。主イエスを通して、神を知り、神と共にある救いを啓示するように任せられた。<u>キリスト教は、主イエスに神の愛と真実を見る信仰である</u>。

主イエスは、このように祈られた後、弟子たちの方を振り向いて、「あなたがたの見ているものを見る目は幸いだ。言っておくが、多くの預言者や王たちは、あなたがたが見ているものを見たかったが、見ることができず、あなたがたが聞いているものを聞きたかったが、聞けなかったのである」と言われた。旧約聖書の預言者たちや王たちは、神の福音を見聞きしたかったが、できないでいた。しかし、主イエスを通して、福音を直接、見聞きしているあなたがたは幸いだと、弟子たちは喜びの時を生きていると語られた。